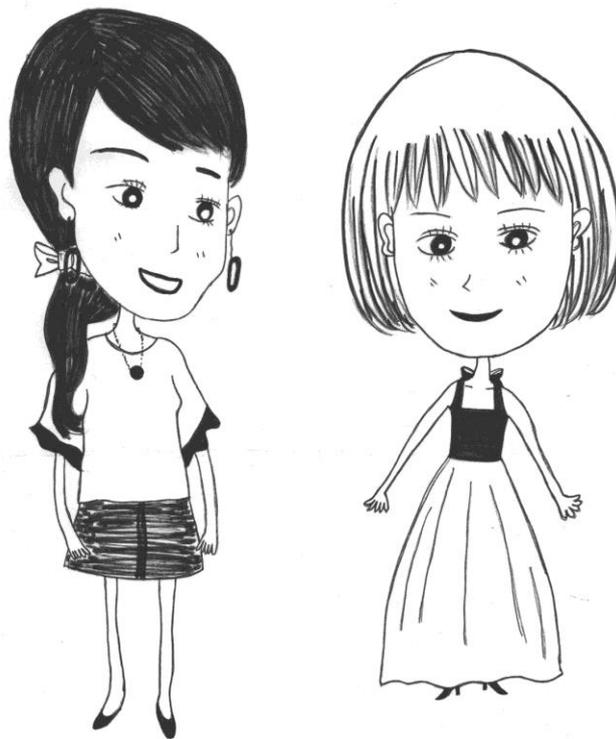


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第1章レッスンの前に考えること、用意すべきもの



スカラー

■ごあいさつ

はじめまして！スカラーと申します(*^-^*)

このたびは「ピアノの教え方」教材を手にとってくださりありがとうございます。

この教材は、これからピアノ教室を始めようと思っている新米ピアノ講師さんのために作りました。私のこれまでの経験をもとに、ピアノをまったく教えたことがなくても、子どもたちへピアノレッスンができる方法をお伝えしていこうと思います。

教える対象は小学1年生です（読み書きができて、数字が数えられるレベル）。

ぶっちゃけ私自身、講師を始めたころは「どんな順番で、何をどうやって教えたら良いか」が全然わからなかったんですよ。しかも、教え方の悩みを解決するような教材がなかったので、子どもたちに遠回りをさせて上達を遅らせてしまった苦い経験があります・・・。

でも、わからないながらも試行錯誤をしていくうちに、「この順番で教えたらいいんだ！こんな言い方で教えたら理解してもらえる」ということが少しずつわかりました。そして子どもたちの技術が上がったことで、教え方に手ごたえを感じられるようになってきたんです。

なのでこれは、「こんな教材があれば、子どもたちに遠回りさせずにピアノを教えられたらいいな」という思いで、いわば過去の私に向けて作った教材なんです。

指導経験がまったくなくても自信を持って教えられるように、例えば、真ん中の「ド」の音の説明の仕方など、経験がある人にとって当たり前のようなことも、省かずにお伝えしています。また、レッスンのタイムスケジュールを載せることで、「どの段階で何を教えたら良いか？」がわかっていただけだと思います。

あなたが、子どもに教えるときに、少しでも教え方で悩む時間を減らすことができれば、とてもうれしいです(^-^)

■ 目次

■ ごあいさつ	2
■ 目次	3
■ レッソンの道のみ	5
■ レッスンをするうえで最も大切なことは？	6
■ 導入期の指導が運命の分かれ道！	7
■ 導入期のレッスン「3本柱」	8
■ 先生の頭を悩ませる教材選び	9
教材楽譜屋さんにたくさんあるのはなぜか？	9
コラム 「ブルグミュラー」について	10
■ 実は、導入期には向いていない「バイエル上巻」	11
欠点①	12
欠点②	13
欠点③	14
まとめ	15
■ 「バイエル上巻」に代わる本	16
「バスティン」と「オルガンピアノの本」が良い！	16
「バスティン」とは？	18
「バスティン」の良いところ！	20
「バスティン」の欠点	22
「オルガンピアノの本」とは？	23
「オルガンピアノの本」の良いところ！	24
「オルガンピアノの本」の欠点	25
まとめ	25
■ スカラーの商売道具	26

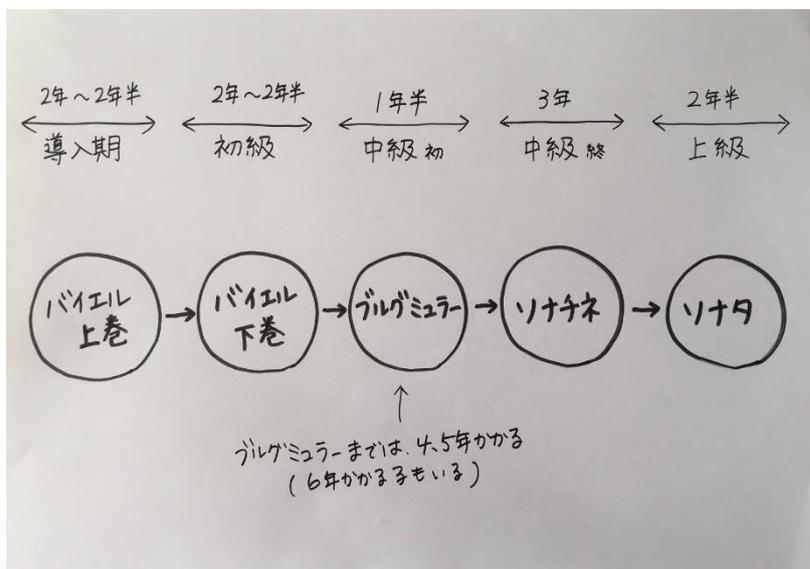
第1章 レッソンの前に考えること、用意すべきもの

音符を教えるときの小道具	26
リズムを教えるときの小道具.....	27
■月謝袋について	28
■レッスンノートの作り方	30
必要な道具.....	31
準備物	32
作り方① 表紙・裏表紙をラミネートする	34
作り方② 紙をリングに通す.....	37
■おわりに.....	40
■規約	41

■レッスンの道のり

まず始めに、そもそもピアノを子どもに教えるにはどれくらいの年数がかかるのでしょうか？

あなたも経験してこられた道のりかもしれないけれど、改めて図にしたのでご覧ください。



いやあ～改めて道のりを見てみると気が遠くなりませんか(^_^;)。

「バイエル上巻」から始まって、上級レベルの「ソナタ」までいくのに10年以上……。中級レベルの「ブルグミュラー」までいくのにも5年はかかるんですから、ほんとにピアノが弾けるようになるための道のりは長いですね。あなたもきっとこんな感じで進んでこられたのではないのでしょうか。

では、この長い道のりを歩ませるために最も大切なことって何なのでしょう？

■ レッソンをするうえで最も大切なことは？

あなたに質問です！

「初めてのレッスンを考えるのに何が一番大事だと思いますか？」

教材選びでしょうか？それとも教室の雰囲気づくり？はたまた子どもを飽きさせないための小道具づくりでしょうか？

ぶっちゃけどれも大事です。でも一番大事なのはそこじゃなくて……。

レッスンにおける「ゴール」を設定することなんです！

では、ゴールとは一体何でしょうか？

それは、「両手でスラスラ弾ける状態になってもらう」ことです！

子どもたちに教えたいたことは山ほどあるけれど、まずは、「両手でスラスラ」弾けないことには話にならないからです。

もし、ゴールを考えないまま漠然と教えてしまうと、生徒のレベルに合っていない教材を弾かせてしまったり、同じようなレベルの本を何年もやってしまったたりして、生徒の成長を遅くしかねません。

じゃあ、両手でスラスラ弾いてもらうには、どんな指導をしていけば良いのでしょうか……。

■導入期の指導が運命の分かれ道！

両手でスラスラ弾くための指導、それは「導入期」を丁寧に指導していくことです。

もう、これに尽きるといっても過言ではありません！

「導入期」というのは、ピアノを始めて2年~2年半ぐらいまでの時期のことを言うのですが、ピアノが好きになるかそうでないかも、すべてピアノの導入期にかかってきます。それほどに最初の**2年~2年半の指導がものすごく大事**なんです。

導入期の教え方を間違えると、

左右別々の動きに時間がかかったり、音符を読むことが苦手になったりしてしまいます(>_<)

左右別々の動きが苦手になってしまった子どもは、**だんだん練習がツラくなりピアノをやめてしまいかねません。**

音符を読むことが苦手になってしまった子どもは、**音符がたくさん書いてある難しい曲が弾けなくなってしまいます。**

なので、こういう生徒が増えないためにも、導入期の指導はしっかり進めていく必要があります。

■導入期のレッスン「3本柱」

- ① ピアノを弾く
- ② 音符を読む
- ③ リズムをたたく

これが導入期にピアノを教える上で大事な3本柱です。これ、すごく大事なので覚えておいてください(^-^)

「①ピアノを弾く」は、両手10本の指がスラスラ動くようになる技術が必要なので、とにかく指を動かす訓練をしないとイケません。

「②音符を読む」は、楽譜を見たときにどの音かパッとわかるために、とにかく音符を見てドレミで答える訓練が必要です。

「③リズムをたたく」は、楽譜を見たときにどんなリズムなのかを頭でイメージできるように、リズム譜をひたすらたたく訓練をやっていきます。

ちなみに、「①ピアノを弾く」ことばかりに特化してしまうと、「ピアノはうまいけど、実は音符が読めていない」子に育つし、逆に「②音符を読む」ことばかり教えてしまうと、「楽譜を読むのは早いけど、全然指が動かない」子に育ってしまいます。「③リズムをたたく」も②と同様で、リズムが上手にたたけるからといって、ピアノがうまいわけではないんです。

なので、この3本柱はどれも偏ることなく、**同時並行**で教えていく必要があるんです。この「同時並行」に教えていくことが一番難しいんですけどね・・・(^-^;)

で、この3本柱を軸に、同時並行で進めていくためには、当然ながら、**指導の土台となる教材**が必要になってきます。

ということで、次は、教材選びについてお話ししていきます。

■先生の頭を悩ませる教材選び

第1章の中でも特に読んでほしい部分です。

教材が楽譜屋さんにとくさんあるのはなぜか？

あなたは導入教材を探しに楽譜屋さんに行ったことはありますか？ 私はいつも楽譜屋さんに行くと教材の多さに頭がクラクラしてしまいます・・・(;°Д°)

それほどに導入教材に使うピアノ教材が巷にあふれています。

例えば、「ぴあのどリーむ」、「ピアノランド」、「オルガンピアノの本」、「バスティン」・・・、パッと思いついただけでもこんなにあります。あなたもいくつか聞いたことがあるんじゃないでしょうか？

これらの本はすべて、「ブルグミュラー」に到達するまでの導入教材なんですよね。

p6で「両手でスラスラ弾ける状態になってもらう」ことをゴールにして教えようとお伝えしたのですが、これを教材に置き換えると、「ブルグミュラー」までの道のりを組み立てることになるんです。

それにしても、なんでこんなに導入教材が膨大にあるか知っていますか？

それは「ブルグミュラー」を教える上での基礎教材とされてきた「バイエル上巻」が先生にとって教えにくく、子どもにとってもわかりづらいからなんです！ だから代わりの教材選びに頭を悩ませるんです(´▽`;))

では、具体的に「バイエル上巻」のどこがわかりづらいのかを見ていきたいと思います。

コラム 「ブルグミュラー」について

ここで、教本「ブルグミュラー」についてちょこっと解説を(^-^)

ご存知かもしれませんが、「ブルグミュラー」はドイツ生まれ（1806年生まれ）のブルグミュラーさんという方が、ピアノ学習者用に作った教本なのです。

通常「バイエル」が終了したあとに進む本なのですが、「ブルグミュラー」は単調な「バイエル」とは違って、1曲1曲にタイトルがついていて、曲がイメージしやすく音楽性が高いのが魅力です。

「バイエル」、「ソナチネ」、「ソナタ」に代わる教材はあるけど、「ブルグミュラー」に代わる本はないと思っています（あくまで持論ですが・・・）。

「ブルグミュラー」は16分音符や3連符の練習に特化したようなテクニック曲だけじゃなくて、ハーモニーをゆっくり味わうような表現力を必要とする曲もあるんですね。とにかく練習していて飽きないのが良いなあと思います。

最後の曲「乗馬」（ブルグミュラーが改定されていて、今はもう「貴婦人の乗馬」じゃないんですよ！）に至っては、スタッカート練習、3連符練習、スケール練習など、それまでの基礎練習の集大成になっています。ほんとよく考えて作られているなあと関心しちゃいます(#^#)

ちなみに「ブルグミュラー」のレベルは**中級の初め**。（「エリーゼのために」が弾けるようになるレベルと言った方がわかりやすいかもしれません）。

「ブルグミュラー」まで何年かかるかは、人によってまちまちなのですが、週に3、4日練習をしたとしても、ピアノを始めてから**4、5年はかかる**と思います。

■実は、導入期には向いていない「バイエル上巻」

閑話休題。ここから「バイエル上巻」が使いづらいという話に戻りたいと思います。

導入教材の代表である「バイエル上巻」が使いにくいなんて、びっくりですよ(´▽`;)
こんなにメジャーな本なのに・・・、どこが使いづらいのでしょうか。

私なりに、使いづらい理由を考えてみました！

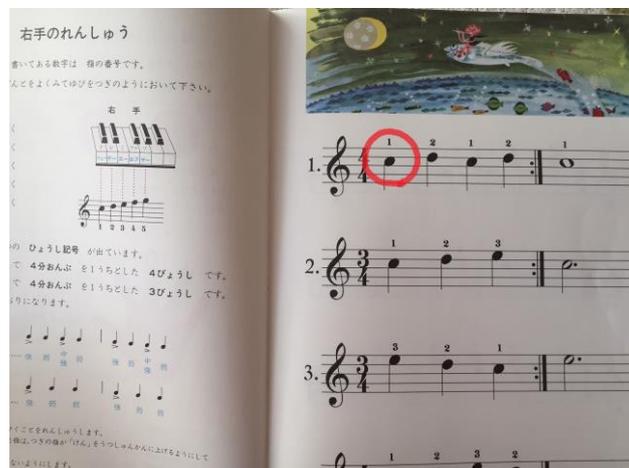
「バイエル上巻」はとにかく **ト音記号の音がしっかり覚えてからヘ音記号に移るのが目的**のようです。

これを逆に考えると、ト音記号をしっかり覚えないとヘ音記号に進めないで、ヘ音記号が出てくるタイミングが遅くなり、ヘ音記号が苦手になる子どもになってしまう恐れがあるのです。

では、「バイエル上巻」の楽譜を見て、具体的にどの部分が使いづらいのか見ていきましょう！

欠点①

「バイエル上巻」は、
右手は真ん中の「ド」じゃなくて、
高い「ド」から始まっています。
音符は真ん中の「ド」から覚えるのが基本なので、
いきなり高い「ド」が出てくると子どもはびっくりします。
教える方としてもぶっちゃけ教えにくい。



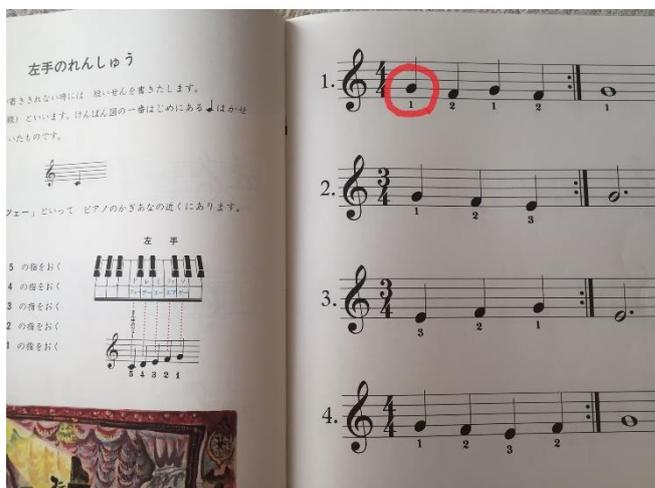
私なら真ん中の「ド」から教えます。
また、ト音記号だけ載っているんじゃないくて、
ト音記号とヘ音記号と一緒に載っている楽譜を
使います。
これを「大譜表 (だいふひょう)」と言います。
最初から大譜表に慣れてもらった方がよいです。



欠点②

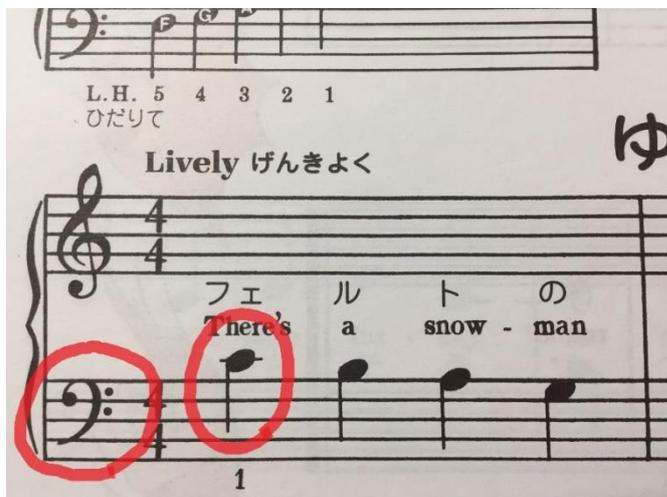
また、「バイエル」では右手が終わったら、左手だけの練習をします。

左手は「ソ」の音から真ん中の「ド」に向かって「ソファミレド」弾いていくのです。これは真ん中の「ド」から弾く楽譜の構成にしてしまうと、小指から弾くことになってしまいます。子どもの小指には力がないので、「ソ」が最初にきています。理屈はわかりますが、どうにも違和感を感じます・・・。



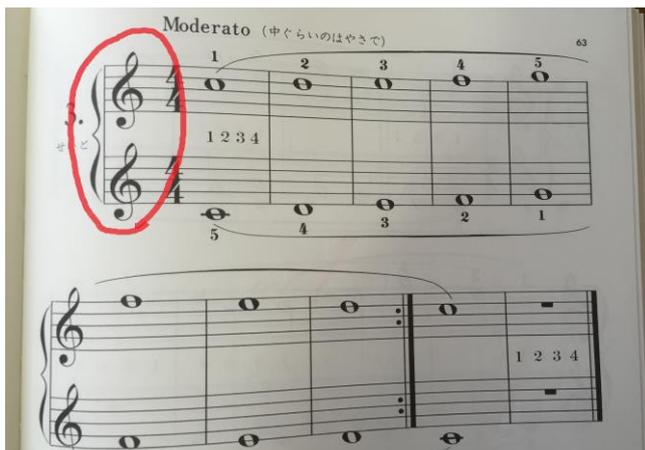
私なら左手も真ん中の「ド」からドシラソファと下にさがっていくやり方で教えていきます。

※ここでへ音記号の説明は必要ですが、「このマークはへ音記号っていうよ。へ音記号は左手で弾こうね」と軽く言えば良いです。



欠点③

先ほどもお伝えしましたが、「バイエル上巻」ではテキストの後半からやっと両手が出てきます。しかし、左右どちらもト音記号から始まるため、ヘ音記号を学ぶ時期が遅くなり、ヘ音記号を苦手とする子どもが出てくる可能性があります。



私なら、右手も左手も真ん中の「ド」から始めます。右手は「ドレミファソ」と上にあがり、左手は「ドシラソファ」と下にさがって教えます



このような欠点から、私はピアノの導入期には、「バイエルの上巻」は使わないようにしています。先生がイマイチと思っている本で子どもに教えたら、子どもはもっと理解できません(´▽`;))

まとめ

ピアノが弾けるようになるための道のりはとってとても長いです。初心者が上級レベルに到達するまでには10年以上の歳月がかかるのです。

先生は、こんな途方もない道のりを子どもたちに歩ませるわけですが、まずは、「両手でスラスラ弾ける状態になってもらう」ことが、第一のゴールになる。

「両手でスラスラ弾ける」ようになってもらうには、何とんでも導入期の指導が大事で、導入期のピアノを教える上で大事なレッスン3本柱を同時並行していくことがとってとても大切。

「両手でスラスラ弾ける状態」を教材に置き換えると、「ブルグミュラーまでの道のりを組み立てる」ことになる。

指導の土台となる教材が、なぜ楽譜屋さんがたくさんあるのかというと、導入教材の代表である「バイエル上巻」がわかりづらいため、「バイエル上巻」に代わる本がたくさん出版されたから。

.....

以上がこれまでのまとめです。

「バイエル上巻」がわかりづらい理由がわかっていただけましたでしょうか？

次は「バイエル上巻」に代わる本についてお話ししていきます(^_^) この章のポイントなのでしっかり読んで下さいね！

■「バイエル上巻」に代わる本

スカラーは、バイエル上巻の代わりに、

「バスティン」と「オルガンピアノの本」の2冊を使っています。

「バスティン」と「オルガンピアノの本」が良い！

「バスティン」



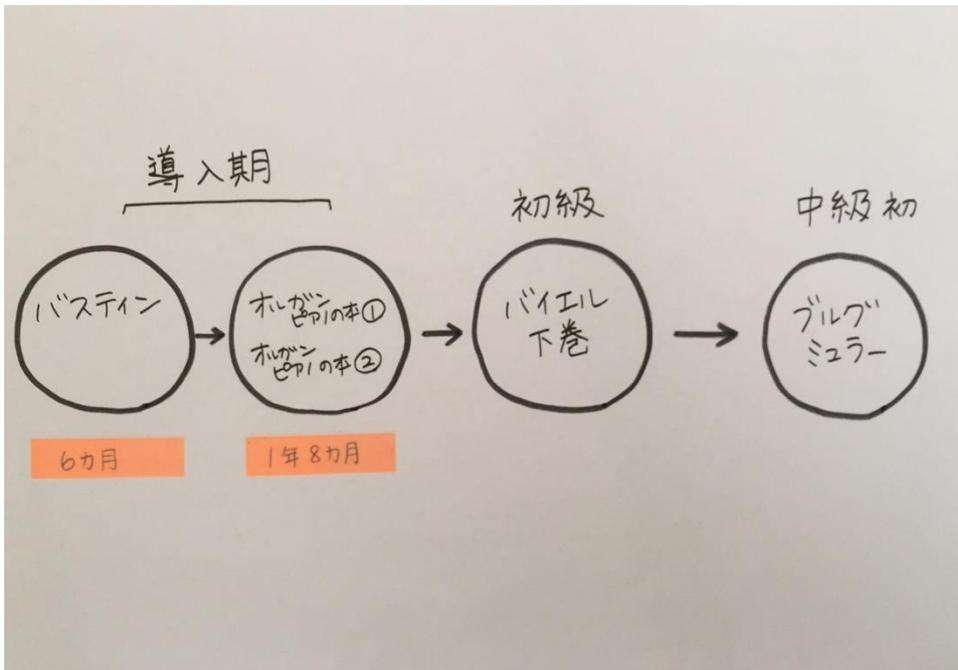
「オルガンピアノの本」



「バスティン」は、ピアノの導入本でピカイチに教えやすいです。これ以上教えやすい導入本はないと思っています。5線がないため、音の上がり下がりが明確で、楽譜が読めない状態でもスラスラ弾くことができます。

「オルガンピアノの本」は、「バスティン」が終了したあとに弾いてもらうのですが、音符が大きく見やすいのと、聞いたことがない曲ばかりじゃなくて、知っている曲も収録されているところが魅力です♪

「バスティン」と「オルガンピアノの本」を使って「ブルグミュラーまでの道のり」を図にしたらこんな感じです。



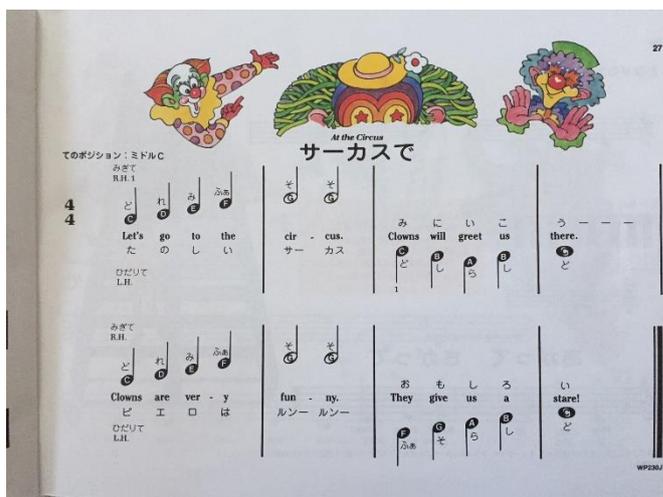
「オルガンピアノの本2」が終了したら、「バイエル下巻」に入っていきます。
私の場合は、「バスティン」は途中から進度が早くなりかなり難しくなるので、バスティンは導入の途中まで使って、後は進度が緩やかな「オルガンピアノの本」を使っていきます。

「バスティン」とは？

「バスティン」にはいろんな種類がありますが、私が使っているのは、「**ヤングビギナーピアノプリマー-A**」(以下、「プリマー-A」と言う)です。



「バスティン」の最大の特徴は、最初は5線がないことです。バスティンの目的としては、「**楽譜を読むことが先ではなくて、とにかく指がスラスラ動くようにする**」ことなんです。これが5線のない楽譜です。



どうでしょうか？ 5線のない楽譜を見るのが初めてだったらびっくりですよ！「ドレミファソの文字を見て弾くの？」「これでは音符が読めない子どもになってしまうのでは？」といろんな疑問が湧くかと思います。私も最初そう思っていました。

でも 5 線のない楽譜は、音の上がり下がりがわかりやすく、子どもたちはとてもスムーズに弾いてくれますし、不器用な子ほど弾きやすい本なのです。

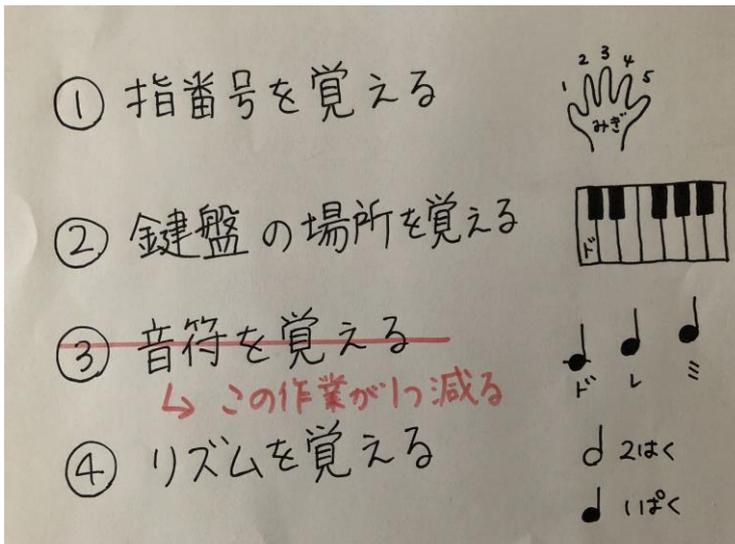
またこの教材と並行して、音符を読むトレーニングを進めていけば、楽譜が読めない子どもにはなりません（音符を読むトレーニングの方法については、第 2 章でお伝えしていきます）。

ちなみに、バスティンはシリーズが大変多く、ピアノシリーズの「ピアノレベル 4」が終わると「ブルグミュラー」が弾けるレベルになっています。

「バスティン」の良いところ！

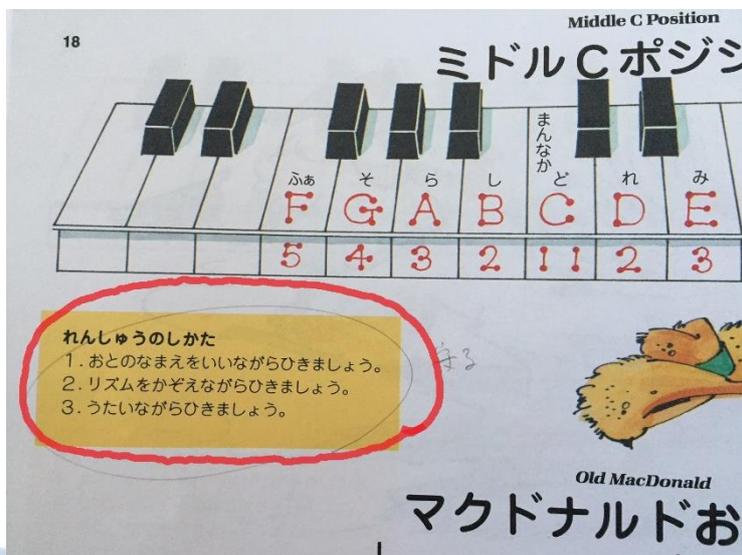
① 5線がない

繰り返しになりますが「バスティン」の導入本には5線がありません。ピアノを弾くためには、「①指番号を覚える」、「②鍵盤の場所を覚える」、「③音符を覚える」、「④リズムを覚える」いう4つのことを同時にしなくてははいけません。でも「バスティン」を使えば「③音符を覚える」作業が1つ減るので、子どもたちは鍵盤と指に集中して弾くことができます。



② 練習の順番が書いてある

私が「バスティン」の一番気に入っているところは、「れんしゅうのしかた」(練習の順番)がテキストに書いてあることです。



「こんなの当たり前のことじゃないか！」と思われるかもしれませんが(^-^;)、これこそが正しい譜読みの順番なのです。順番通りに弾いてもらうのは、実は結構地道で面倒くさいのですが(^-^;)、この順番を導入期から徹底しておくこと、譜読みが早い子どもに育ちます。

③真ん中の「ド」を起点として音を覚えていく

「バスティン」は、音符が出てくる順番もよい感じで、真ん中の「ド」と起点として、右手「ドレミファソ」、左手「ドシラソファ」と展開していくのも良いです。

右手「ドレミファソ」へ展開

14

れんしょうのしかた
 1. おとのなまえをいながらひきましょう。
 2. リズムをいながらひきましょう。
 3. うたいながらひきましょう。

On the Swing
 ぶらんこで

あぎて
 R.H. 1 2 3 4 5 5 4 3 2 1

On the swing I go so high. Then I come down from the sky!

お が れ よ た か く が ん こ ゆ か い

左「ドシラソファ」へ展開

16

れんしょうのしかた
 1. おとのなまえをいながらひきましょう。
 2. リズムをいながらひきましょう。
 3. うたいながらひきましょう。

Snow in Winter
 ふゆのゆき

ひだりて
 L.H. 1 2 3 4 5 4 3 2 1

Snow is fall-ing on our town. Watch as it comes down!

し ら そ せ ふあ せ ら ふあ せ ら し ど

「バスティン」の欠点

ここまで、「バスティン」は素晴らしいとお伝えしてきたのですが、どんな教材でもメリットがあれば、デメリットもあります。

では「バスティン」の欠点とはどこにあるのでしょうか？

「バスティン」の特徴は、導入期には5線がないことですが、**逆に5線の楽譜に慣れている子や、理屈で考える子にはバスティンは合いません。**

また、「プリマーA」が終わると、次は同じシリーズの「プリマーB」、「ピアノレベル1」・・・、と順番に進むのですが、**「バスティン」はプリマーB以降、進度が早く、不器用な子についていきません。**

なので、私は「プリマーA」が終わったら、比較的優しめの「オルガンピアノの本」を使っています。

「オルガンピアノの本」とは？

「オルガンピアノの本」も、ピアノの導入教材を代表する本です。

1巻～4巻まであり、4巻が終了すると、「ブルグミュラー」が弾けるレベルになっています。ただこの本から始めると、先生も子どもも負担が大きく、特に子どもの頭がパンクしてしまう可能性があります。なのでまずは、初歩の進度が緩やかな「バスティン」のプリマーAを弾いてもらうことをおすすめします。



「オルガンピアノの本」の特徴としては、「バスティン」同様、音符が真ん中の「ド」を中心として左右に展開していくところですね。

ちらちらこゆき
詞・曲：ヤマハ

◆「そ」と「ふあ」のおとをおぼえましょう

「オルガンピアノの本」の良いところ！

「オルガンピアノの本」は、楽譜が大きくとても見やすいのが特徴です。



また、知っている曲が多く収録されて、子どもは飽きずに進むことができます！



「オルガンピアノの本 1」の前半は、「プリマーA」のレベルとほぼ一緒です。なのでプリマーAが上手く弾けなかったとしても、「オルガンピアノの本 1」で復習ができるのも良いところですよ(*^-^*)。

「オルガンピアノの本1」、「オルガンピアノの本2」と進めば、無事に「バイエル下巻」に入ることができます。

「オルガンピアノの本」の欠点

「オルガンピアノの本」は、4巻まで進めば「ブルグミュラー」に進むことができます。

ですが、1巻はとっても弾きやすくて良いのですが、2、3巻から難しくなっていくのが欠点です。

ですので、「オルガンピアノの本1」がギリギリ合格した場合は、2巻に進むとたちまち弾けなくなるので、「ぴあのどリーむ2巻、3巻」や「バスティン プリマーB」等、同等のレベルの教材に移行するなどの工夫が必要になってきます。

まとめ

- ・「バイエル上巻」に代わる本として、「バスティン」と「オルガンピアノ」を使う
 - ・「バスティン」は、楽譜を読むことが先ではなく、指がスラスラ動くことを優先している。
なので5線がない。5線がないことで音の上がり下がりがわかりやすい
 - ・「オルガンピアノの本」は、音符が大きく見やすいのが最大の特徴
-

以上がバイエル上巻に代わる教材の紹介でした。

■ スカラーの商売道具

教材のほかに、音符やリズムを教えるときの小道具があればレッスンがやりやすいです。
ここでは、実際にレッスンで使っている、いわばスカラーの「商売道具」をお見せいたします
（これを使っのレッスンのやり方は第2章で解説させていただきます）！

音符を教えるときの小道具

- ・大きな文字で書いた音符カード（自作）



- ・「ポケモン おんぶカード」（楽器店で購入。）

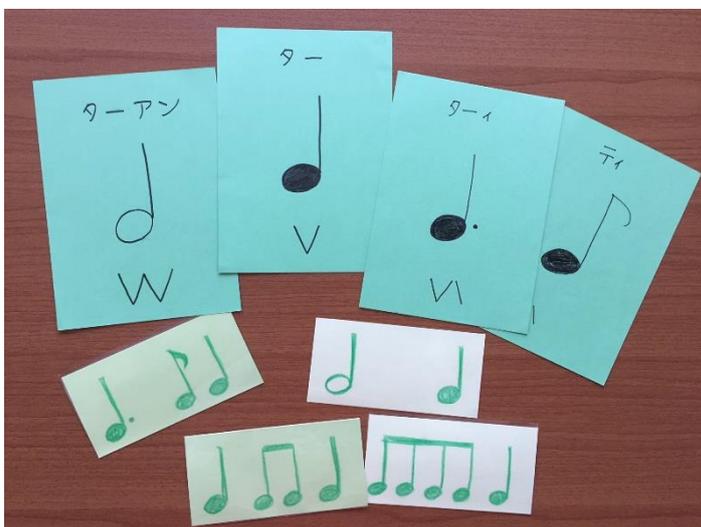


リズムを教えるときの小道具

- ・使いやすさバツグンの音符の積み木（スカラーが使っているものは、リトミック研究会で購入した非売品です。類似品はこちらです→ [音符の積み木](#)



- ・リズムカード 100円均一の色画用紙に書いたもの（自作）



■月謝袋について

月謝袋の用意の仕方までお話ししちゃいますよ！

うちの教室では、（大きな声では言えませんが）100円均一のものを使っています。

楽譜屋さんには、ディズニーとか、くまモンとかかわいらしい絵柄の月謝袋があるのですが、変にオリジナルを出したくて、あえて殺風景な茶封筒にして、かわりにかわいいシールを貼っています。

100円均一のキャンドゥーで調達しました。



お月謝をいただいたら、領収日付とシールを貼ります。

こんな風に色鮮やかなシールにすると、ちゃっちゃった月謝袋もかわくなります！！



シールはこちら。これも100円均一です。

このシールは、ダイソーにあったんですけど、あつたりなかつたりするので、見つけたときに買いだめしています。音符の棒が折れたりするので、耐久性は良くないです(笑)



1年間使った月謝袋はどうする？

日付がいっぱいになった月謝袋は、「生徒の親にお返し」します。

そのときに、古い月謝袋の方には、「領収書のかわりとして保管ください」と明記し、新しい月謝袋と一緒に親にお渡しします。

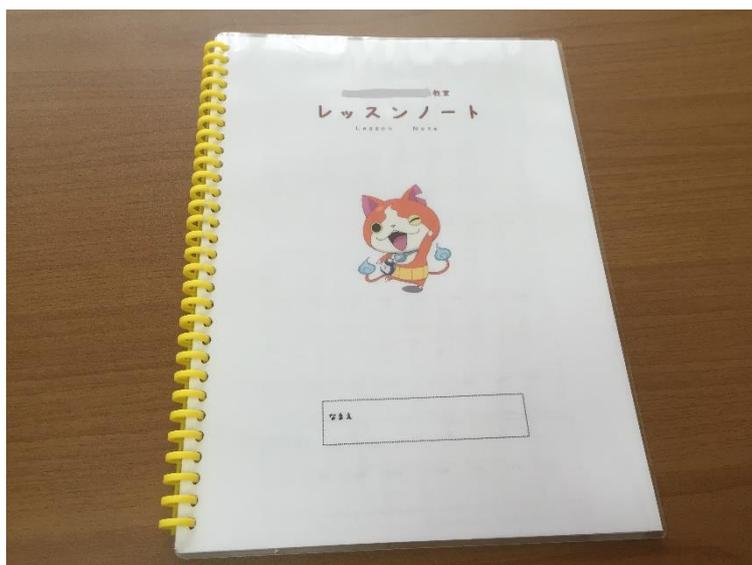


■ レッスンノート の 作り方

レッスンノートは、レッスン後に、宿題の内容や、今日がんばったことを書いてもらうノートのことです。また、お家で練習したらカレンダーにシールを貼ってもらうので、ノートを見れば、練習量が分かるので、生徒の状況の把握がしやすく、レッスンがスムーズにいきます。

レッスンノートは、既製品が売っていますが、私はオリジナルで作成しています。その名も、「**ルーズリーフレッスンノート**」です！

こんなノートです↓

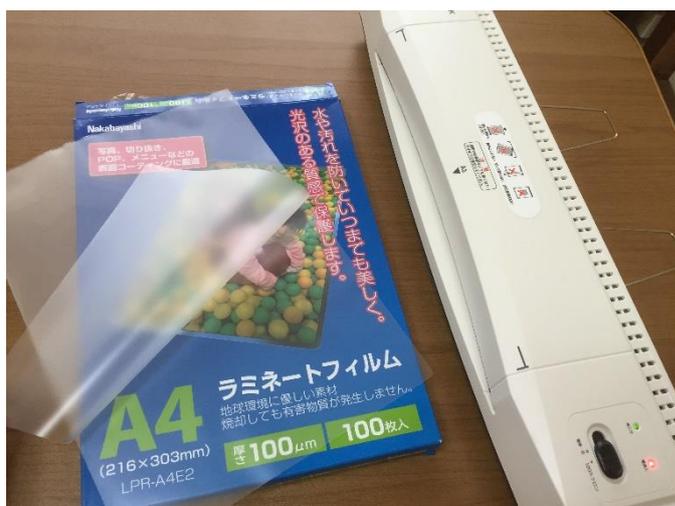


あなたもオリジナルでやりたい場合は、作り方の参考にしてもらえたらと思います。

必要な道具

ルーズリーフ式のレッスンノートを作る際、それなりに道具が必要になるので、文房具やアマゾンで調達してください。

- ・左から、ラミネートフィルム 100枚入 A4、ラミネートの機械



- ・左から、パンチ穴と青い縦長の道具、ルーズリング 10mm (3本入り)

(※ルーズリングは安物を買ったので、耐久性がないです。1年持てばいい方)



準備物

① 表紙と裏表紙

ワードで文章と画像を好きな位置に貼り付けてください

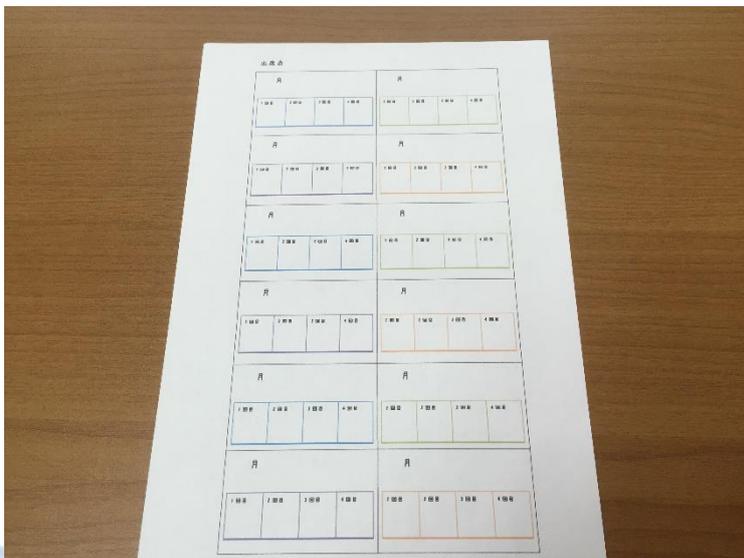
※子どもが好きなキャラクターの表紙にしてあげるとよろこびますよ！



② 出席表

ワードで文章と画像を貼り付けます。

※[こちらをクリック](#)すると出席表の画像がでできます。印刷してお使いください。



第1章 レッソンの前に考えること、用意すべきもの

③ 練習カレンダー

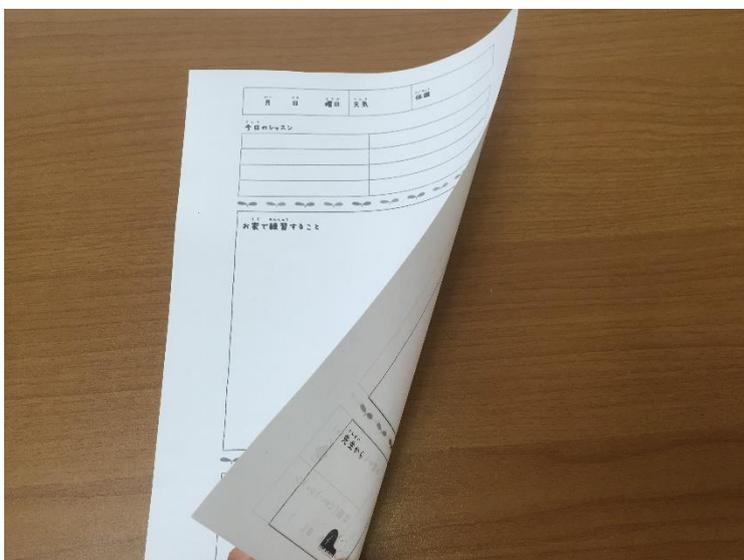
カレンダーを両面印刷します。

※「ハッピーカレンダー」というサイトで無料で印刷することができます。とても重宝しています



④ レッスンページ

※[こちらをクリック](#)するとレッスンページの画像がでできます。印刷してお使いください。

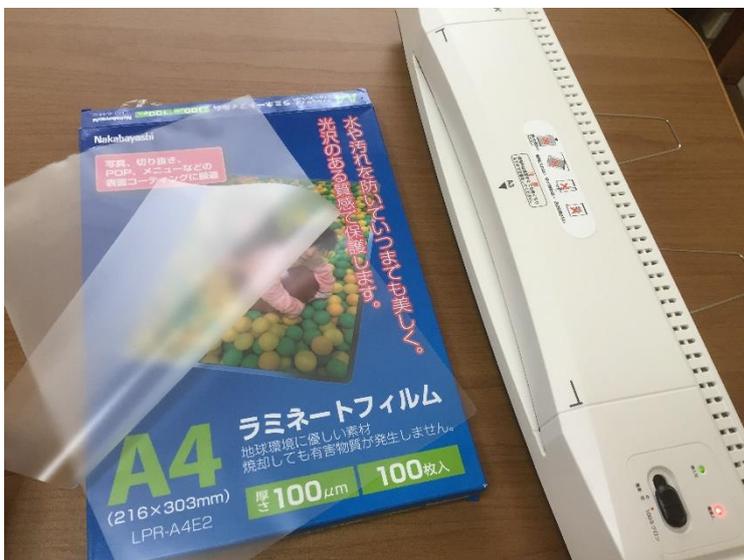


この4点がそろえば、準備完了です。

次は、表紙をラミネートをする方法についてお伝えしていきますね。

作り方① 表紙・裏表紙をラミネートする

① フィルムとラミネートの機械を用意します



② ラミネートの機械を事前に温めておきます



第1章 レッソンの前に考えること、用意すべきもの

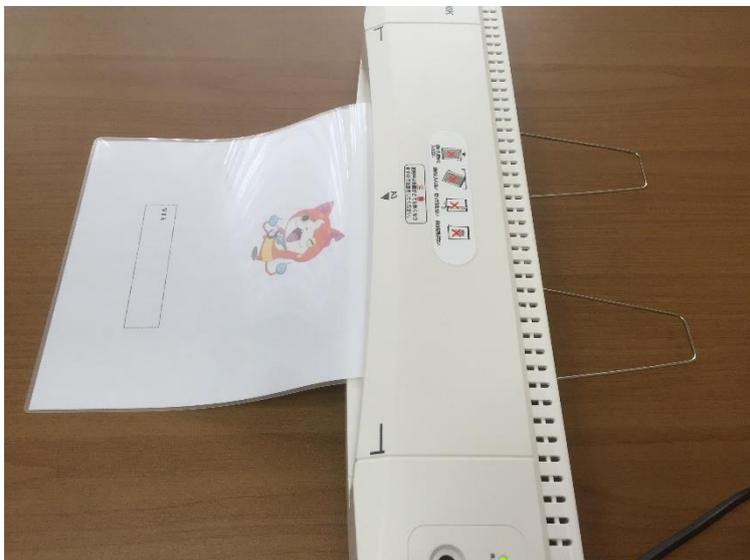
- ③ 機械を温めている間に、紙をフィルムにはさみます。フィルムは透明のペラペラです



- ④ フィルムの中央にまっすぐに置きます（大事なところです！）



- ⑤ 必ずフィルムの閉じている方から入れます。あとは機械に任せてラミネートをされるのを待つだけ。



- ⑥ 同じように裏表紙もラミネートが出来たら、完成です！

*** ラミネートをするときの注意点 ***

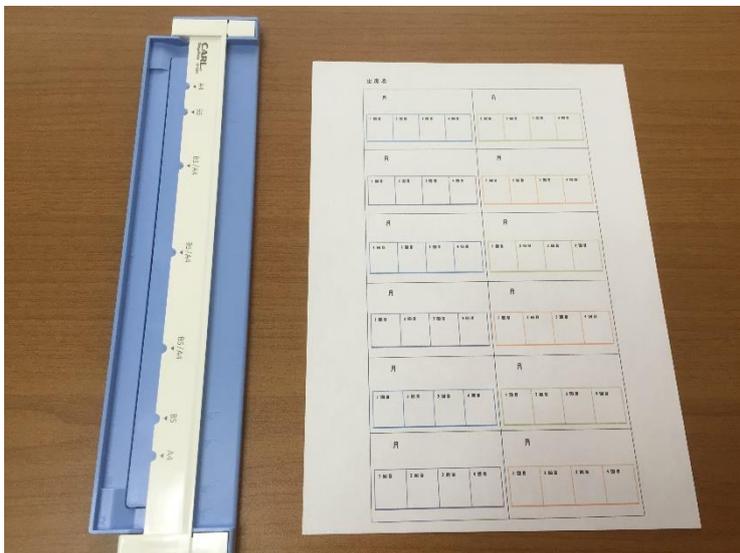
ラミネートをするときは、机の上とか、硬いところで作業をしてください（あと、後ろトレイの付近には物を置かない方がよいです）。

私は、ラミネートし終わったら、紙をまっすぐにするために、すぐにじゅうたんの下に敷きます（ラミネートした直後はまだ紙がふにやふにやしているため）。

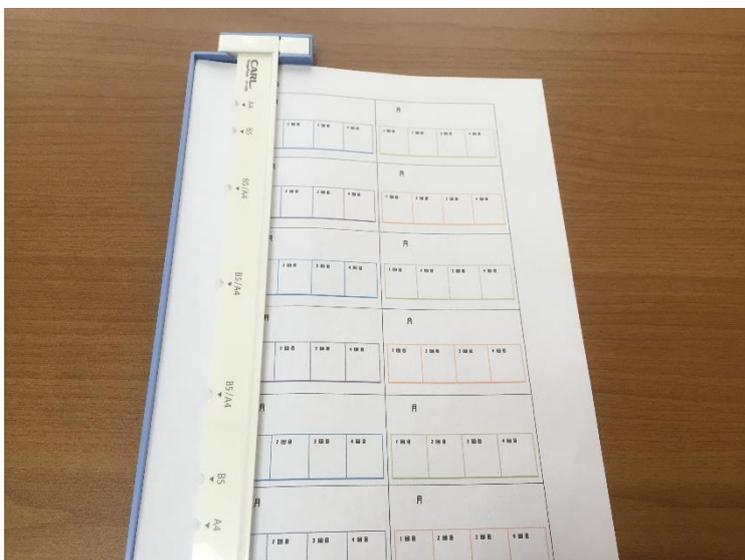
無事に、表紙、裏表紙がラミネートできたら、次はいよいよ紙をルーズリングに通していく作業です。完成まであともう少しです！

作り方② 紙をリングに通す

① まず、縦長の青い道具を用意します



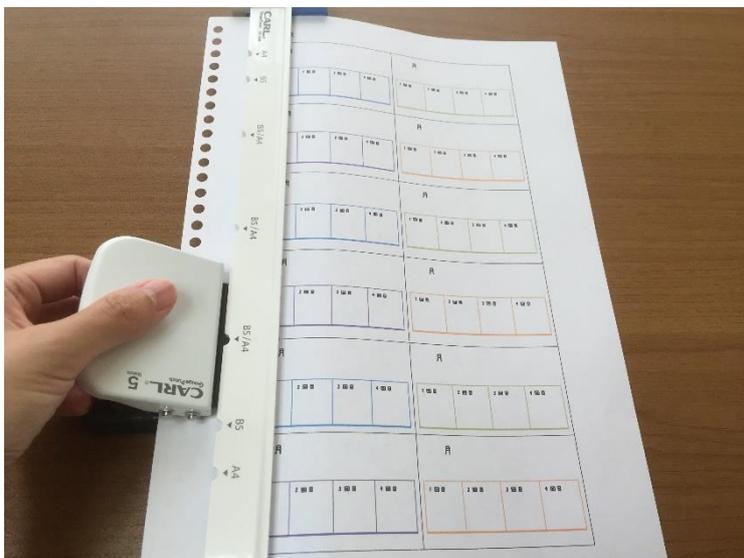
② 紙に、青い道具に紙をはさみます



第1章 レッソンの前に考えること、用意すべきもの

③パンチで穴をあけていきます

(初めて使ったときは感動しました！かなり便利です)



⑤ ルーズリングでとめていきます

この黄色い棒を「ルーズリング」と言います。リングに紙をどんどん入れていきます。



第1章 レッソンの前に考えること、用意すべきもの

⑥ 手でポチポチとめめます

もしくは、ルーズリングジッパーという道具で、リングを一気にとめることができます



⑦ 出来上がりです！



このノートは、ルーズリーフ式なので、途中で紙を追加したり減らしたりすることが自由自在です。オリジナルのノートを作ることができますよ(^-^)

道具を一からそろえるのが大変ですが、買って損はないと思います。私自身かなり重宝しています♪

■おわりに

これで、第1章の「レッスンの前に考えること、用意すべきもの」は終わりです。

実際にピアノを教える前に、「こんなに考えることがあるのか!」と思われたかもしれないけれど、この事前準備をすっ飛ばして、いざ、子どもにピアノを教えたとしても、必ず壁にあたってしまう。

なので、そうならないために、特にこの章の、

「ブルグミュラーまでの道のり」と「先生の頭を悩ませる教材選び」

というところがとっても大事なので、しっかり読んでもらえたらと思います。

あとは、時間があるときに、「ふんふん。そうなんだ」くらいに読んでもらえたらうれしいです(*^^*)

何でもそうですが、人はやったことがないことに対してとても不安になるし、億劫になってしまいます。

これを読んで「私にもピアノの先生ができるかも!」って感じてもらえたらうれしいです(^-^)

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>